

JICA 基金活用事業 案件概要

I. 事業の概要	
1. 事業名称	誰一人取り残さない防災教育の推進 ～防災かるたが拓く、外国人を含む災害情報弱者の防災力向上プロジェクト～
2. 活動国・地域	日本国内
3. 事業分野	☐ 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業 ☒ 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業
4. 事業の目標	外国人、高齢者、子ども、障がいのある方など、災害情報の入手に課題を抱える人々の防災意識を高め、自らの命を守るための知識を習得してもらうことを目的とする。 また、様々な場で防災かるたを活用した活動を実施することで、市民が災害情報弱者と共に生きる共助社会の一員であることを実感し、災害について考える機会を提供する。これらの取り組みを通じて、多文化共生と共助社会の実現を推進していく。
5. 事業の背景・経緯・対象地域の課題・人びとのニーズ	現在、日本の在留外国人数は 358 万人を超え、過去最高を更新している。災害大国である日本において、外国人への防災アプローチは喫緊の課題である。さらに、防災用語には日常で使わない理解困難な言葉も多く、言語的な壁から外国人、高齢者、子ども、障がいのある方も災害情報弱者となりやすい。こうした人々に対しては、情報のアクセシビリティを高める支援が必要である。
6. 事業の意義・目的	本事業は、外国人住民と地域住民が自らの防災力を高めるとともに、相互に助け合える共生の環境を形成することを目的とする。
7. 主な対象者（受益者）	本事業の主な受益者は、外国人住民および防災情報の入手理解に課題を抱える地域住民（高齢者、子ども、障がいのある方等）とする。
8. 実施期間	2026 年 2 月 ～ 2027 年 1 月
9. 活動内容	1. より多くの外国人が防災活動に参加できるよう、現在英語とやさしい日本語を併用している防災かるたを、新たに 10 言語に翻訳する。 2. 多言語版防災かるたのダウンロードを可能とする専用ウェブサイトを構築する。 3. 市民および災害情報弱者を対象に、防災かるたを用いたワークショップやセミナーを約 5 回開催する。 4. 手話を用いた防災情報のアクセシビリティ向上を図るため、YouTube 等で配信する手話動画コンテンツを制作・発信する。 5. 身近な 100 円均一ショップのグッズを活用し、誰もが気軽に取り組める防災バッグ作成体験を実施する。
10. 事業費	1,000,000 円
II. 団体の概要	
1. 実施団体	やさしいにほんごでぼうさい普及委員会
2. 主な活動内容	「やさしいにほんごでぼうさいかるた」を活用した防災ワークショップや、100 円均一グッズを用いた防災バッグ作成体験などを実施している他、小学校等において、やさしい日本語を用いた防災啓発活動にも取り組んでいる。